

各 位

平成 19 年 10 月 30 日

会社名 株式会社コロワイド

代表者名 代表取締役 蔵人金男

(コード番号 7616 東証第一部)

(連絡先電話番号:045-274-5970)

業績予想の修正ならびに特別利益および特別損失の発生に関するお知らせ

I. 業績予想の修正について

最近の業績の動向を踏まえ、平成 19 年 5 月 2 日に公表いたしました連結(中間期・通期)業績および個別(中間期・通期)業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 中間期連結の業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

|                     | 売上高    | 経常利益  | 当期純利益  |
|---------------------|--------|-------|--------|
| 前回発表予想(A)           | 63,197 | 938   | △426   |
| 今回修正予想(B)           | 58,133 | 366   | △287   |
| 増減額(B-A)            | △5,064 | △572  | 139    |
| 増減率(%)              | △8.0   | △61.0 | -      |
| (ご参考)平成 18 年 9 月期実績 | 54,227 | 429   | △1,809 |

[金額単位:百万円]

2. 通期連結の業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

|                     | 売上高     | 経常利益  | 当期純利益 |
|---------------------|---------|-------|-------|
| 前回発表予想(A)           | 127,343 | 4,036 | 1,435 |
| 今回修正予想(B)           | 120,023 | 3,736 | 1,604 |
| 増減額(B-A)            | △7,320  | △300  | 169   |
| 増減率(%)              | △5.7    | △7.4  | 11.8  |
| (ご参考)平成 19 年 3 月期実績 | 117,005 | 1,632 | 232   |

[金額単位:百万円]

3. 中間期個別の業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

|                     | 売上高   | 経常利益  | 当期純利益 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 前回発表予想(A)           | 1,165 | 106   | △175  |
| 今回修正予想(B)           | 1,139 | 316   | 14    |
| 増減額(B-A)            | △26   | 210   | 189   |
| 増減率(%)              | △2.2  | 198.1 | -     |
| (ご参考)平成 18 年 9 月期実績 | 1,097 | 665   | 505   |

[金額単位:百万円]

4. 通期個別の業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

|                     | 売上高   | 経常利益  | 当期純利益 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| 前回発表予想(A)           | 2,343 | 475   | 38    |
| 今回修正予想(B)           | 2,306 | 574   | 153   |
| 増減額(B-A)            | △37   | 99    | 115   |
| 増減率(%)              | △1.6  | 20.8  | 302.6 |
| (ご参考)平成 19 年 3 月期実績 | 2,217 | 1,263 | 795   |

[金額単位:百万円]

#### 連結業績予想数値の修正理由

当中間期の外食産業につきましては、ファーストフードが下支えとなり、全般的には売上高の回復傾向を維持するものの、ファミリーレストランや居酒屋業態は、従来からの競争激化や昨年来の飲酒運転問題もあり苦戦が続いております。

このような状況の中、当社ではグループとしての取り組み課題として、「マーチャンダイジング機能の強化」「グループ経営の効率化」「本部機能の強化」「店舗開発・設備投資の厳正化」「人的資源の充実」といった施策を進めてまいりました。

外的環境の変化への対応という観点から、従来からの収益構造の見直しが必要となっており、これらに対しプロアクティブに対応した結果、グループ全体の損益分岐点売上高につきましては、当初計画に対し固定費の削減ならびに固定費の変動費化といった改善により引き下げることが出来ました。

しかしながら売上高につきましては、商品開発機能を株式会社コロワイドMDに集約しメニュー変更を含む店舗運営の改革を行った中で、急激な変革に対し店舗での混乱を招いてしまったこと、また、効率化を重視しメニューを絞り込んだ結果、業態および店舗の個性が失われ来店客数の減少を招いてしまう結果となりました。また、居酒屋業態につきましては客単価の引き下げを行い来店客数の増加を図りましたが、予定通りの増加に至りませんでした。このような要因から連結売上高の半分を占める居酒屋部門の売上高の減少が大きく、当中間期における居酒屋部門の既存店売上高前年対比が90.4%、レストラン部門の既存店売上高前年対比は95.0%となり当初計画に対し大幅な未達となりました。

経常利益につきましても、売上高減少の影響で当初計画に対し未達となる見込みであります。

中間純損失につきましては、固定資産売却益等の計上もあり当初計画に対し若干縮小する見込みであります。

通期につきましては、中間期までの実績を踏まえ売上高の回復に最大限努めてまいります。当社グループ売上高の半分を占める居酒屋業界を取り巻く事業環境は依然厳しいと考えられることから、売上高は120,023百万円を見込んでおります。中間期において低下した居酒屋部門の客単価を10月のメニュー改定により元の客単価まで引き上げること、また、居酒屋業態として復刻メニューも取り入れながらお客様に支持されるメニュー改定を行ってまいります。

経常利益につきましては、世界的な需要拡大に伴う食材原価の高騰、地価高騰に伴う賃料相場の上昇および少子高齢化・景気回復による人手不足に伴う人件費の上昇といった外的要因はあるものの、グループ全体の経営の効率化を継続して行っていくことにより3,736百万円を見込んでおります。

当期純利益につきましては、下期において店舗リニューアルに伴う固定資産除却損等の特別損失を418百万円予定しているものの1,604百万円を見込んでおります。

#### 個別業績予想数値の修正理由

経常利益および中間純利益の増加要因は、保有有価証券の売却益等の計上によるものであります。

## Ⅱ 特別利益および特別損失の発生について

### 1. 特別利益の発生について

当社連結子会社である株式会社コロワイド西日本が運営しておりました店舗におきまして、立ち退きに伴う固定資産売却益が 296 百万円発生いたしました。

### 2. 特別損失の発生について

当中間期末におきまして、不振店舗等の固定資産を対象に 22 物件に対し減損損失 438 百万円を計上すること  
いたしました。

以上